

石神第二小学校便り

令和2年度 第10号(12月号)
文責：石神第二小学校長 林 典行

令和2年 ～ 瓢箪から駒の年に ～

今年の漢字は「密」とのことです。3密を意識した生活を余儀なくされ、まさに新型コロナウィルスに始まり、新型コロナウィルスで終わる(収束してほしい)年となりました。いよいよ年の瀬を迎えるにあたり、今年1年を振り返ってみたいと思います。

国から発令された緊急事態宣言を受け、南相馬市の小・中学校は3月4日から3月23日まで臨時休校となり、令和元年度の教育活動が実質ストップしました。卒業式についても簡素化した形で執り行われました。

令和2年度の入学式が終わり、1学期がいよいよスタートした束の間の4月9日、臨時休校の措置が取られました。4月14日に学校が再開されるも17日にまたもや臨時休校、子ども達の姿が見られなくなり、暗澹たる気持ちになったことを記憶しています。5月13日から分散登校での教育活動が始まりましたが、正式な授業の再開は5月25日まで待たなければいけませんでした。

ただ、学校が再開されたとはいえ、1学期に予定されていた行事はすべて中止となり、加えて、本校では新しいプールが竣工したにもかかわらず、水に足さえも入れることができませんでした。子どもたちの歓声が聞こえないプールを眺めるたび、断腸の思いとはまさにこのことかと感じ入った次第です。

東日本大震災も未曾有の事態でしたが、復興という目標のもと、見通しをもちながら一步一步前進することができました。対して、令和2年は世界的なパンデミックにより、全く先が見通せない状況が続いています。そのような意味からも、今年はこれまで経験したことがない年と言っても過言ではないとい実感しております。

しかし、このような中で教育活動を進めていると、新鮮な認識及び驚きに出会うことがたびたびありました。その何点かをお示します。

令和元年度の卒業式は、南相馬市内すべての小学校がほぼ事前練習なしで執り行われました。本来であれば一生に一度のハレの舞台ですので、卒業生は礼法や呼びかけなど、入念に事前指導を受けたうえで式に臨みます。今年は練習なしなのでどうなるものかと内心ひやひやしていましたが、どの小学校も厳粛な雰囲気を保ち、すばらしい卒業式となったという声が多く聞かれました。

本校では、5月にできなかった運動会に代わり、9月、上学年と下学年に分けてミニ運動会を開催しました。これは予定されていなかったイベントなので、練習時間を十分確保することができませんでした。

そのため、ダンス種目以外は、ほぼぶっつけ本番となりましたが、下学年の最上級生となる3年生は、普段高学年が担当する競技の係活動に一生懸命取り組んでいました。その姿にふれ、大きな感動を覚えました。また、上学年の開・閉会式はすべてアドリブ(台本なし)で行われました。閉会式での6年代表児童のお礼のことは、それに応える4・5年生のエール、校長のしゃちほこ張った話より何と素敵な内容でしょう。

子どもたちは、我々が思っている以上にやれる、できる、がんばれる・・・!!「瓢箪から駒」とはまさにこのことです。子どもたちの秘めた能力を過小評価していたのかなとつくづく思い知らされました。これまでの固定観念にとらわれず、新しい視点に立って教育活動を見直す、令和2年の経験はこのような機会に是非とも位置づけたいと考えているところです。

